

## 保育關係文献解説(二)



教育研究所  
養育研究部 竹田俊雄

### 三 幼兒心理學を中心として

山下俊郎  
昭和十三年 B6 四一〇頁 三〇〇圓  
巖松堂

守屋光雄  
昭和二十四年 A5 四三六頁 四三〇圓  
白井書房

乳幼兒の心理的發達を母親および保母のために叙述した教養向、一般向の書。こどもを育てるためには愛とともに智を要すること、乳兒期や幼兒期がこどもの心の發達のためにどのような重要性をもつているかを強調して、教育的な立場から兒童心理學を扱っている。序論に續いて、乳兒の心理の篇では、新生兒・感覺生活・運動能力・感情生活・知能についてくわしく述べて、乳兒の心理的特徴を明らかにし、次に幼兒の心理の篇では、運動能力・言葉・空間・時間および數の觀念・記憶および注意・思考・創作・情緒生活・好奇心および興味・社會性・遊び・習慣・道徳など各方面にわたつてその心理と導き方とを説いて、幼兒の心理の根本的特性を擧げている。更に幼兒の精神検査の篇では、精神検査についての

解説とこの書が發行された當時現行の幼兒知能検査が掲げられている。著者は長く愛育研究所員で現在は東京家政大學教授、この書はわが國最初の幼兒心理學書としての地位を占めている。

三四歳までの乳幼兒の育兒法を心理學的な面を主として述べたもの。親を對象として書かれているが、教養向としてよい。内容は育児に對する科學的態度その他について述べた序論をはじめとして、身體的發育・運動・歩行・遊び・社會性・知的發達・感情・言語・質問・睡眠・食事・被服・習慣・鍛け方・人格・住居の十六章から成り、ハーロックの著述をはじめ内外の研究に基き、日常しばしば起る育兒上の具體的な問題を取り扱っている。たとえば社會性の章では子供の誕生日を祝うためにはどのように注意を要するかということまで説き及んでいる。著者は京都市兒童院で研究と相談に從事

している人である。

三木安正

### 幼児の心理と教育

昭和二十四年 B6 1103頁 150圓

國土社

かつて愛育研究所員であり、現に文部省や國立教育研究所に勤務する著者が、幼児の問題に觸れて得た豊かな経験に基いて書いたもの。ある農村での保育の実験・幼稚園保育所の教育と家庭教育・「しつけ」について・幼兒期の精神發達の様相・生長發達の段階・いろいろな子供・家庭の教育・幼稚園の教育・児童の福祉など十章から成っている。最近の幼兒教育の方向を知ることのできる教養向の書である。

東京文理科大學内児童研究會編

児童の行動と發達（上）

金子書房

昭和二十四年 A5 三一三頁 二七〇圓

「児童心理叢書」の第二卷であり、次の七篇が含まれている。

佐藤幸治 人間生涯の心理學的經過とその段階

竹田俊雄 幼児の心理

依田新 學童期の心理

桂廣介 青年期の心理

前川峯雄 身體發達について

牛島義友 社會性の發達

松本金壽 學童の言語發達

竹田俊雄「幼児の心理」の篇では、乳兒から就學前までの

児童を、新生兒・乳幼兒前期・乳幼兒後期・一歳兒・二歳兒・三歳兒・四歳兒・五歳兒と年齢別に考察して、その行動の特質を述べている。前川峯雄氏および牛島義友氏の論文もそれぞれ乳幼兒期の身體發達や社會性の發達について詳しく述べている。幼児心理を一層研究しようとするものための教養向ないし専門向の書。

また依田新「學童期の心理」、柱廣介「青年朝の心理」の二篇は、別に述べるように年長児童まで取扱う兒童神社法による保母のためには、かつこうの概論書である。

同上

児童の行動と發達（下）

昭和二十三年 A5 三三四頁 二六〇圓

「児童心理叢書」の第三卷・次の六篇から成っている。

三好稔 性的差異の心理

阪本一郎 興味とその發達

森脇要 幼児の言語發達

柴山剛 思考の發達

小田信夫 描畫の發達

宮城延太郎 敷觀念の發達

岡宏子 描畫の發達

この中、森脇要氏はもっぱら幼児の言語について、岡宏子氏は主として幼児の描畫についてその研究したところを中心として述べてられるし、柴山剛氏および小田信夫氏等は青

年期までは扱つてはいるのであるが、それぞれ幼児の思考および幼児の數観念について詳しい説明がなされている。専門向。

武政太郎

世界社

守屋光雄  
中野佐三  
東京文理科大學内  
兒童研究會編

京都印書館  
金子書房  
金子書房

兒童と社會生活

(兒童心理叢書第七卷)

殊にその中の諸篇  
後藤岩男  
關計夫  
矢田部達郎  
兒童の言語

金子書房  
比叡書房

四、學童および青年の心理

個人の発生から青年までの心身の発達を、人と生活環境との機能的體制が新たになるものという見地から考察したもので、この上巻では、發達の概念からはじまって、胎兒、乳兒、幼兒までを説いている。資料として内外の文献、殊にわが國の兒童心理學に関する主要な論文や著書をほとんどくまなく取上げていることが、この大冊の一つの特徴であつて、巻末附録の一〇八に及ぶ發達心理學文献集とともに、兒童心理學を深く研究しようとするものにとつては非常に便利な書物である。第一篇總論は、發達心理學の問題と方法、發達心理學の對象としての發達概念、行動の發達における機能的根據、心的體制、環境體制の五章より成り、第二篇胎兒および

註——學童の心理および青年の心理は乳幼兒の保育に從事するものにとつては直接の關係は少いが、兒童福祉法による收容施設等で保育に從事する保母は、これを研究しなければならないから、ここに参考になる書名を簡単に掲げることにする。

青木誠四郎  
兒童心理學

莊文社

昭和十一年(初版) 昭和十五年(改訂)

A5 四一六頁 三三〇圓

手および腕の運動、智的發達、情緒反應、社會的行動等について、第三篇幼兒では、幼兒期、運動、知覺、思考、はなしことは、記憶、情緒、社會的行動、幼稚園兒の知的行動等について論述されている。専門向。

なお次のいくつかの書も幼兒心理學を専門的に研究しよう

とするものに大いに役立つであろう。

守屋光雄 兒童心理學研究  
中野佐三 兒童の思考心理  
東京文理科大學内  
兒童研究會編

京都印書館  
金子書房  
金子書房

年の精神の七章より成り、附録として幼児の習慣調査法その他が添えられ、幼児期と學童期についての叙述が全體の主要部分を占めている。教養向。

波多野完治  
兒童心理學入門  
昭和二十四年 B6 三四八頁 一五〇圓

金子書房

學童の心理、兒童の自然觀、兒童の道德觀、入學前後の數觀念の四篇より成り、學童の心理では「學習指導要領(一般編)」の學童の心理の部分を著者一流の筆致でたまに解説し、自然觀と道德觀はピアジエに従つてこれをくわしく述べて兒童のアニミズム規則や罰や嘘の考え方を明らかにし、數觀念においては數行動の發達をテストにあらわれた例などを示しつゝ説き進み、なお數形の問題を取り上げてある。著者は第二篇以下がそれぞれ小學校における理科、社會科、算數の指導の参考になることを意圖しておられるが、幼児後期から十歳ごろまでの兒童を扱う保育者が、おとなと違うこどもというものを理解するにはよい教養向の書である。

牛島義友  
青年の心理  
昭和十五年 A5 一八二頁 三五〇圓

巖松堂

この書は三編十章より成り、第一篇序論として、青年期の研究、青年期の意義・精神構造の展開、第二編自我意識の發

達として、自我意慾の發生(反抗)、自我意識の昇揚(感情)、自我意識の分化(理念)、自我意識の社會化(職業)・第三篇社會意識の發達として、社會意識の再出發(孤獨)、社會意識の深化(エロス)、社會意識の擴大の各章の下に、著者の研究の成果が體系的に述べられている。資料となつたものは女子學生の自敘傳が多いが、青年期の心理の特質がよくうかがわれる。専門向。

なおこれらの外に次のようなものもある。

波多野完治 兒童心理學 同文館  
青木誠四郎 青年心理學 朝倉書店  
桂廣介 青年の心理 國民教育社  
岡本重雄 若き日の自我像 羽田書店

## 五、特殊兒童の問題

註——乳幼兒保育施設にも心身の發達や狀態が特殊なこどもがあり、環境上特に注意しなければならないこどもがいる。兒童福祉法の精神薄弱兒施設、教護院・療育施設、育養施設、乳兒院、養護施設等がそれぞれいろいろな意味での特殊兒童を對象としていることはいうまでもない。保育に從事するものはこのようなこども達の心理と指導について知ることもまた大切なこ

特殊兒童の心理  
金子書房  
東京文理科大學内  
兒童研究會編

昭和二十三年 A5 二七五頁 二〇〇圓

「児童心理叢書」の第五巻、次の六篇が收められている。

後藤 岩男 精神薄弱兒

森 重敏 優秀兒

西谷三四郎 性格異常兒

植 松 正 犯罪少年の心理と教育

榎 原 潤 盲兒の心理と教育

川 塞 英次 聾兒とその指導

これら特殊な子どもの心理と指導についてひろく知ろうとするものにとつて讀まれるべき専門向の圖書である。

PTAシリーズ

困った子どもの問題

新經營社

昭和二十四年 B6 一三八頁

九〇圓

問題をもつ子どもの原因と扱い方とを説いたもの。幼年期の問題は山下俊郎氏が、學童期の問題は竹田俊雄が、少年期の問題は森田宗一氏が、分擔執筆している。身體上の問題、性格的な問題、知能に關係のある問題などいろいろな問題がどうして起るか、またどうしたらよいかを各時期について一般向、教養向に述べている。

青木誠四郎  
精神薄弱兒及中間兒童

昭和二十三年 B6 一一九頁

二〇〇圓

壯文社

精神薄弱兒や、それと正常兒との間の、知能指數でいえば七十—九〇の中間兒童がどのようなものであり、どう教育すべきかを明らかにしている。まず個人差を序論とし、精神薄弱兒及中間兒童、その生活障礙、その鑑別、身體、精神、發生原因、教育の各章が展開されている。専門向。

特殊教育研究連盟編  
精神遲滯兒教育の實際

昭和二十四年 B6 一七七頁

一一〇圓

三木安正氏を中心とする特殊教育研究連盟が、各地における精神發達の遲滯していることと達のための教育の現況報告を集録したもの。まえがき（三木氏）、愛はおしみなく（三木編）、特殊學級の諸形態（七篇）、特殊學級の教育（五編）、個人的指導記録（二篇）がその内容で、この貴重な記録はこの種の子どもの指導を助けることが大であろう。専門向。

外林大作  
児童心理学

昭和二十三年 B6 一〇〇頁

一五〇圓

この書は、児童畫と智能というサブタイトルをもつていて、よう、普通の形の児童心理學書ではなく、行動について、描畫の變容、描畫と智能、精神薄弱兒と智能の四章より成つていて。主として精神薄弱兒を扱いながら、心理學一般の理論的なものを求めているので、新しい心理學によつて明らか

にされた精神薄弱児といふものが理解されよう。専門向。

精神薄弱児については、次の文献も興味深く読まるであらう。

戸川行男

特異兒童

目黒書店

イタール著  
古武彌正譯  
アザエロンの野生兒

後藤岩男

異常兒の記録

丘書房

田村一二  
忘れられた子等

冬芽書房

木田文夫  
虚弱病弱兒童の教育

昭和二十四年 A5二二六頁

金子書房  
二〇〇圓

小學生や中學生の一割以上を占めると見られる虚弱なこどもや病弱のあることの特質やその対策について説いたもの。

ここに扱われている範囲は、不良體格、腺病質・結核要

注意・神經質、偽結核症狀、偏食、ひきつけ、目まい卒倒、

頭痛痺、胃腸異常、性的惡癖、指なめ等の悪癖、夜尿症・か

ゆがる等の癖、心臟異常、漏斗胸や肢體不自由、てんかん氣

質等で精神薄弱、假性低能、性格異常にも少しく觸れてい

る。よわい小中學生の養護教育のために書かれたものであるが、このようなことを扱う保育者にとって参考となること

がきわめて多い。著者は日本醫科大學にある醫博。教養向。

大阪市民援護會編

子供の不眞化はどうして防ぐか

大阪市民援護會

昭和二十三年 B6五二頁  
一一〇圓

一一〇圓

アメリカにおける兒童福祉事業の實驗を紹介したもので、要保護兒童を如何にして早く見出すか、兒童の問題を如何に解決したか、要保護兒童の缺陷は何處からくるかの三章から成つてゐる。一般向、教養向。

警視廳保安少年部少年第二課編  
少年の補導

警視廳

昭和二十三年 A5一五二頁  
非賣

戦後東京における青少年の生活の實態と、不良化の状況、不良行爲、犯罪等々の統計その他が示されてい、兒童の不良化問題についての一つの資料である。専門向。

大宮錄郎  
浮浪兒の保護と指導

昭和二十三年 B6一九四頁

中和書院  
一一〇圓

浮浪兒とはどういうものか、どのように扱うべきか、その實態と保護、指導について、兒童相談所に勤務してゐた著者が書いたもの。保護所や養護施設等の保母の讀むべきもの。専門向。

山下俊郎  
一人子の心理と教育

昭和二十三年(再刊) B6一四七頁  
一一〇圓

巖松堂  
一一〇圓

一人子はどんな問題をもつてゐるか、その特異性の心理を

いろいろの面から検討し、それを教養する態度の問題、社會生活をさせるについての問題をくわしくのべ、一人子の教育原理をかけて、一般兒童の教育と對比している。一人子はどこにでもいるものであるから、幼稚園・保育所の保育者の教養向の書として學ける。

### 發行所所在地

巖	松	堂	東京都千代田區神田神保町二ノ二
臼	井	書	房
國	土	書	京都市左京區北白川京大北門前
金	子	書	東京都文京區高田豐川町三七
世	界	房	東京都文京區大塚坂下町一五五
比	都	印	東京都文京區大塚音羽町三ノ一九
壯	印	書	京都市中京區押小路通馬場東入新橋町
同	館	書	京都市中京區二條堀町
朝	倉	書	東京都千代田區西神田二ノ二三
國	文	社	東京都千代田區神田神保町一
羽	經	社	東京都千代田區神田錦町
新	營	店	東京都千代田區日暮二丁目
牧	書	店	東京都千代田區駿河臺三ノ四
銀	房	店	東京都中央區神田駿河臺三ノ三
目	杏	書	東京都新宿區堀切町一
書	書	房	東京都文京區駒込町一七二
店	店	店	東京都千代田區神田駿河臺三ノ一

(三二頁より) 質の向上に重點 以上、今年の統計にあらわれるように考慮されたいと申します。この統計では他の學校の上から知り得た現況の大略を以比して非常に教員の程度が低述べてみましたが、これに示さといといわれるのは一體もつともれているよい傾向も悪い傾向もあるといわざるを得ません。ただ結果の數を示しただけで決幼稚園は幼兒を扱うのであるから教員も程度が低くてもよいから教員も程度が低くてもよいといふ理由はありません。幼兒これを解決してくれるのは實期の教育こそしつかりした基礎の指導のできる教員が必要なのでありますから、新しく教育職員免許法が制定された際も幼稚園の教員の身分は嚴重に規定されたのでありますから管理者も教員も大いに教員の資質といふことについては考え方なればならない點であると思ひます。

(文部省初等教育課事務官)

丘	講	書	房	大阪市北區高塙町九九
和	談	書	社	東京都文京區音羽町三ノ一九
中	冬芽	書	房	東京都文京區關口水道町十三
和	大阪市民援護會	視	廳	大阪市北區大阪市役所内
書院	東京都千代田區霞ヶ關一ノ二			
	東京都千代田區神田猿樂町一ノ三			